

会 議 結 果 の お 知 ら せ

宮古市水産振興ビジョン策定委員会第2回委員会を次のとおり開催しました。

令和6年10月10日

宮古市水産振興ビジョン策定委員会

- 1 開催日時
令和6年9月27日（金）午前10時00分～午前11時05分
- 2 開催場所
宮古市役所2階 2-1会議室
- 3 議題
宮古市水産振興ビジョン（案）について
- 4 会議の概要
別添のとおり
- 5 問い合わせ先
産業振興部水産課水産振興係 電話0193-68-9099

宮古市水産振興ビジョン策定委員会第2回委員会

1 出席者（11名）

湯浅啓、伊藤道夫、佐藤一彰、寺井繁、前田宏紀、畠山格久司、佐々木元、八木澤節子、盛合敏子、大澤糸子、伊藤隆司

2 欠席者（4名）

佐々木克敏、藤原修一、伊藤稔、須藤一保

3 事務局出席者（4名）

産業振興部農林水産振興次長	飛澤 寛一
産業振興部水産課長	中西 秀彦
産業振興部水産課水産振興係長	中野 昇二
産業振興部水産課水産振興係主任	佐々木大輔

4 傍聴者

なし

5 議事等

宮古市水産振興ビジョン骨子（案）について

宮古市水産振興ビジョン骨子（案）について、事務局から説明した。

質疑応答内容

質問・意見	回答
【議題「宮古市水産振興ビジョン（案）について」】 （委員） 組合員世帯に対して、後継者に関するアンケート等を実施するべきだと思います。実態を調べてデータを持っていないと、ビジョンだけが先走りしてしまいます。先のことを考えてやっていかなければいけないと思います。（意見） （委員） 現ビジョンの実績検証の中で、水産業総生産額という指標を「概ね達成している」と言っていますが、地域の現状をとらえていないと思います。一般の方が見たときに、「どうしてこんなに水揚量等が減っているのに、総生産額は概ね達成しているのか」と感じると思います。新ビジョンに反映させると記載していますが、どのように反映させようとしているのでしょうか。指標としては、あっても良いと思いますが、達成ということではなく、「ある統計資料から見ると概ね達成しているが、現状としては厳しい状態」ということを追記する必要があると思います。その辺をどのように考えているのか、教えていただければと思います。 （委員） 近年の増養殖漁業を見ると、温暖化の影響で、宮古・重茂・田老を中心としたワカメとコンブは、これまでと比べて数量等がかなり減っています。何か手だてがあって、今後上昇していく要素があるのかというと、今の研究機関によれば、難しいとのことでした。例えば、温暖化等に耐えうる新しい種づくりに	（事務局） 各漁協で実施している調査もあるようですので、内容を確認し、不足するようであれば市でもアンケート調査等を実施したいと思います。 （事務局） 総生産額については、水産業だけでなく、農林業も同様なのですが、全体で算出するため、どうしても数値が高くなってしまいます。なぜそうなるのかを解説した上で、実態がわかるように現状を詳しく書く必要があると思います。 数値としては、そのまま使わせていただき、現状分析のところに、「概ね達成」だけでなく追記したいと思います。 （事務局） その通りだと思います。宮古の養殖業、天然も含めて良い兆しが見えていないのもその通りです。その中で、過大な目標をたてるのもいかなものかと思いますので、本日いただいた意見を加味しながら、目標値を検討させていただきたいと思います。

しても、研究は進めるものの、時間がかかると言われていました。目標は設定しますが、データや状況を見たときに、海水温の関係で難しいのだろうと感じています。鮭、サンマ、スルメの漁獲量がどうしても伸びていかないのも、研究機関によると高水温の影響ではないかとのことでした。世界的にそのような状況なのであれば、ビジョンの中で目標値を決めるのは厳しいと思いますが、それらを考えながら、数字は小さくても達成できるような目標の設定が必要だと感じます。（意見）

（委員）

今までも誘致活動やPR活動を行ってきましたが、漁獲量や水揚げ金額は少なくなっています。今までは、サンマを中心に行政も一緒になって誘致活動を行ってきましたが、それを発展させて、今後サンマの他に、誘致先として何か案がありますか。誘致とは、どのような魚種、どのような漁業種の誘致を考えているのでしょうか。

（委員）

漁協はもちろんですが、買受人を含めて、魚市場に出入りしている関係者の意見が大切だと思います。生産者からも加工業者からも様々な意見が出て、それを1つずつ解消していけば、今よりは少しは改善していくのではないかという気がします。（意見）

（事務局）

今は、様々な移り変わりの途中だと思っています。今年サバが良いから来年も良いかというところというわけではない、過渡期なのだろうと思っています。そのため、今これというものは探せずにいる状態です。しかし、サンマ、鮭、イカだけを待っていても、今後回復しない可能性もあります。今もサンマ船等の誘致を実施していますが、今実施しているものもやりつつ、切り替えの準備に取り組んでいくべきなのだろうと思っています。

（事務局）

「市場に出入りしている人たち」と一緒になってやっていかなければいけません。市と市場だけで一生懸命誘致しようとしてもできないことだと思います。過渡期だということで、市場と相談して、何をすれば船に来てもらえるのか、何であれば買受人に買ってもらえるのか、何であれば加工できるのか、何であれば出荷できるのかを全て加味しながら取り組んでいかなければいけません。市、市場、買受人、小売業の方々、市場に出入りする人みんなの意見を聞きながら進めていかなければいけないと思っています。

(委員)

漁協組合員数は、現状値を維持するという形になっていますが、農林水すべてそのような形なのですか。人口減少の中で、現状維持するというのは非常に大切なことだと思いますが、実態は気になるところです。どこの統計を見ても減少していきますよね。漁業センサスでも5,000人を切りましたので、漁業者も減っているというのが現状としてはあります。なかなか言いづらいことですが、気になったところです。

(委員)

サケ・マス類を中心としたトラウトサーモン以外の対象種や「新たな魚種等の研究」の対象種は、何を考えているのですか。また、研究機関の対象は、漁協なのか、宮古市内にある研究機関なのかをお聞きしたいです。

(委員)

水産技術研究所では、サクラマスの海面養殖あるいは陸上養殖の研究をしています。5ヶ年計画で研究を進めており、来年度(R7)まではサクラマスを中心に研究する予定です。完全なもの、社会実装できるまでのものができるかどうかは断言できませんが、それを目指しています。基本的には、海水までを含めた陸上養殖です。他の地域でサクラマスの養殖は行われているので、対象種の1つにはなると思います。(意見)

(事務局)

その通りだと思います。行政的に減らす目標を作るのはなかなか難しいというのがあります。しかし、人口が減っている中で、水産だけを増やすか、農林だけを増やすかということにはならないと思うので、冷静に判断する必要があると思います。農林も含めて、目標値を減らすことが可能かどうか相談したいと思います。

(事務局)

私たち市が直接研究というのは難しいと思います。水産技術研究所等を含めて、関係機関と協力してということになるので、表現の仕方を修正させていただきます。新たな魚種については、これというものがまだないというのが正直なところです。魚もそうですし、ホタテも高水温の影響が出てきているので、魚に限らず、何がどう宮古市に適しているかを考えて進めていきたいという趣旨で、記載しているものです。

(事務局)

今、宮古トラウトサーモンを養殖していますが、例えばその隣で養殖できるようなものだというのが成果として出るようであれば可能性があると思います。釜石市では、すでにサクラマスの養殖を行っています。売買単価等が見合うようであれば、サクラマスも新たな魚種の候補にあがってくると思います。それが陸上でできるもの、どれくらいの規模で、どれくらいの経費で見合うのかということが重要です。その成果を見ながら、陸上でできるものを探していきたいと思います。

(委員) 担い手対策（２）の２つ目、「漁具の購入等を支援」とは、温暖化が進んで獲れる対象魚種が変わるので、それに対応した漁具の購入を支援するというイメージでしょうか。	(事務局) 近代化資金の利子補給を指しているものになります。魚種が変わっていけば、獲る方法等いろいろなことが変わっていくと思うので、その都度支援していく必要があると思います。そうでなければ、養殖も含めて、魚種転化はなかなかできないと思います。ホタテを養殖しているけれど、次違うものをというときに当然支援が必要でしょうし、その都度相談しながら考えていく必要があると思います。
(委員) ビジョンはどこまで周知されるのですか。このようなことをしますというのが、市民にも周知されるのですか。前回は、冊子で配布されましたか。	(事務局) 今回は、冊子で配るのではなく、デジタル化という方針になりました。市のホームページに載せるので、ダウンロードしていただくことになります。
(委員) 大水により山に保水力がないために、川に一気に水が流れてしまうという現象が発生しているので、植樹についても盛り込んでいただきたいです。（意見）	(事務局) 各漁協でもすでにそのような取り組みをされていると思います。どこかに盛り込みたいと思います。